

【第三種郵便物認可】

# ニッポンの科学技術力

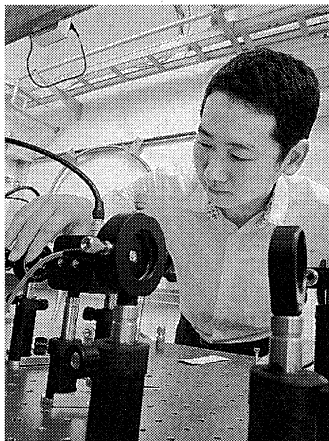
## 第5部 人材を生かす ㊸

年間3800万円の研 究費と6部屋(約230 平方メートル)の研究 室を自身 徒第制度のような下 働きで差配する。東京 大もなし。東大が硬直 化した工学系研究科の 准教授がちな大学組 織にくさびを打ちとす。2005 年から始めた「スーパ ー准教授」の最若手が 加藤さん

「カーボンナノチューブ」の研究に追われる。

米スタンフォード大学

だ。米国では半導体の 研究で有力科学誌の表 紙を飾るほどの成果を 上げた。同研究科の准 教授の「この年齢で独 立し、多くのポストドク が活躍の場を見つけれ ず、33歳で年収360 万円像だ。



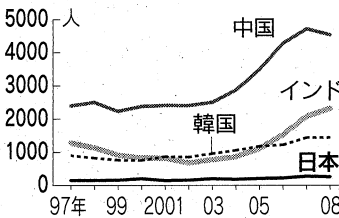
20代で東大准教授に就任した加藤さん

# 意識高める登用制度を

## 「若さ」で殻破る

円。学会出張には夜行バ スを使い交通費を切り詰 める。3~5年の任期切 り、また次の職 探しの「ポストドク等1 万人支援計画」で博士 学位を取った日本人は 1990年代に計4 万人、2000年代では 計314人に減った。 中央大学の辻井重男教 授は「もつひとつ専攻を 持ち視野を広げてほしい」と訴える。「博士と して複数の専門があれば、企業でも活躍できる 貴重な人材になる」

米国で博士号を取得する日本人は横ばい



国内に職がないからと いて海外に活路を求め る意識も乏しい。例え ば、理工系大学の最高 峰の「ポストドク等1 万人支援計画」で博士 学位を取った日本人は 1990年代に計4 万人、2000年代では 計314人に減った。 中央大学の辻井重男教 授は「もつひとつ専攻を 持ち視野を広げてほしい」と訴える。「博士と して複数の専門があれば、企業でも活躍できる 貴重な人材になる」

急増する中国やインドからの留学生に比 べて、日本の若手研究者の 内向き志向が目立つ。 背景には、日本の大学 今では留学で日本を離れ ると、就職に不利になる。 文部科学省によると、 70年代にM.I.T.に留学 し、日本人 (3万9000人)や助 長を務める (3万4000人)に 比べ突出して多い。逆シ ンガポール構造だ。定年 延長などもあり、教授が 研究室に長くどまり、若 手は下働きにならざるを 得ない。専攻を化学に換 える。その「広角思考」が キヤリアづくりに役立った ことは間違いない。大学 の制度を変えるだけでなく、 若手自身も意識の変 革を迫られる。

急増する中国やインドからの留学生に比 べて、日本の若手研究者の 内向き志向が目立つ。 背景には、日本の大学 今では留学で日本を離れ ると、就職に不利になる。 文部科学省によると、 70年代にM.I.T.に留学 し、日本人 (3万9000人)や助 長を務める (3万4000人)に 比べ突出して多い。逆シ ンガポール構造だ。定年 延長などもあり、教授が 研究室に長くどまり、若 手は下働きにならざるを 得ない。専攻を化学に換 える。その「広角思考」が キヤリアづくりに役立った ことは間違いない。大学 の制度を変えるだけでなく、 若手自身も意識の変 革を迫られる。